

	<p>どころとなるような指針を早く出していただきたい。</p> <p>避難所の関係はご指摘のとおりでいいと思う。ただ、青葉区の特性として、過去の調査などによると火災の発生件数が非常に低いことが想定されている。必ずしも避難所に集まってくれということではなくて、各家庭での備蓄をしっかりとしましようとか、別の視点で災害対策、あるいは避難の在り方のようなものを少し考えたほうがいいのではないか。</p> <p>コロナだけではなくて、今回の区づくり予算の執行状況について伺いたい。25ページの交通安全について私はいろいろな方からの陳情を受けており、特に横断歩道とかスクールゾーンなどの道路標示・路面標示が、薄いというよりも消えているというご指摘をいただいている。私も改めて区内の状況を見てみたところ、惨たんたる状況である。もちろん、これは県警察等がやることではあるのは承知しているが、市民の交通安全を考えれば、どこの標示が消えているのか把握するため、区として区内の大々的な調査を一度やるべきではないか。</p> <p>鈴木地域振興課長 地域振興課としては、交通安全対策を検討していただいているスクールゾーン対策協議会から寄せられる要望を通して、路面標示のひとつであるスクールゾーンの状況については把握をしており、新設や補修などについて状況を見ながら行っている。それ以外の路面標示や道路標示は土木事務所と警察が所管しており、横断歩道などの道路標示は警察の所管であるため、各協議会から寄せられた情報の中で警察が所管するものがあれば、青葉警察署と連携して県警本部にお願いしていきたい。</p> <p>横山議員 私も特定の箇所について陳情を受けて、対応してくれと伝えても実現まで1年以上かかっている。道路標示等については県警が調査して対応することはわかっているが、スクールゾーン対策協議会とも連携しながら、区で対応すべきところは引き続きしっかりお願いしたい。また、状況の調査についてもぜひ行っていただきたい。</p> <p>あと2点だけ伺いたい。1点目は、マイナンバーカードだが、先ほどのご説明のとおり非常に申請件数が伸びてきている。区役所としても、マイナンバーカードは区民にとって必要なカードだということをしつかり周知をして、各区民がマイナンバーカードを取得してもらうような仕組みをつくる必要がある。</p> <p>白井戸籍課長 マイナンバーカードについては、青葉区でも大変取得が伸びている。現在、約6万枚弱、割合でいうと区民の皆様の19.2%が年度末で取得されている。</p> <p>取得の促進については、全庁的にマイナポイントというポイント制度</p>
--	---

	<p>が導入されることに合わせて設定支援のブースを設けるということをして市民局中心に各区で行うことになっている。そういった場と併せてホームページ、広報紙等でもPRをしていく。</p>
横山議員	<p>最後に、谷本公園の進捗状況を教えてほしい。</p>
續橋区政推進 担当課長	<p>谷本公園の状況は、環境創造局と連携をし、引き続き用地買収を進めている。昨年度交渉に同行した際に前向きな感触を頂いた方がいらしたので、そちらの方に対して契約に向けた手続を進めていく。</p>
大貫議員	<p>道路標示・路面標示の件は、当然県と市の2つの事業が重なっているが、非常に危険な状況になっている。</p> <p>先ほど調査が必要ではないかとおっしゃっていたが、私もそのとおりだと思う。スクールゾーンの問題、区の問題、横浜市の問題として対応できるが、やはり県の所管の問題についても区として調査をする必要が必ずあると思う。交通安全のために道路標示・路面標示に関する調査を区としてやるべきではないか。こういうときこそ青葉区全体の県議会議員も含めて議論するなどの仕組みを考え、調査をぜひやっていただきたい。これが今日の第1の要望である。</p> <p>それから先程説明があったコロナに関して、9ページの生活支援について、生活保護の申請者が52件、前年の同期よりも少ないということが報告された。それがどういう状況なのか、どうしてこのように少ないのか。</p>
繁田生活支援 課長	<p>生活保護の申請は、青葉区では伸びていないという状況。推測ではあるが、生活困窮者支援制度の申請が前年比8倍となっており、現状ではこちらの支援が望まれているのではないかと。</p>
大貫議員	<p>では、(3)のアの相談件数のうち、生活困窮制度と生活保護制度それぞれの件数は？</p>
繁田生活支援 課長	<p>1,052件の内訳は、困窮制度は715件、保護は337件となっている。</p>
大貫議員	<p>337件の相談があって、それに対して52件の申請というけれども、337件がありながら申請数が少なくなったのは、様々な要件があるのではないかと。当然、(生活保護の申請には)所得や貯蓄の要件などがあるが、最終的にその区民の要望を充足するよう、区としてどのようにサポートしてきたのか。</p>

	<p>繁田生活支援課長 (生活保護の) 申請抑制ということはない。(制度の) 説明を聞きたいというご希望があればご説明をしており、再相談なども含めての継続的な支援をしている。ただ、青葉区の特徴としては、生活困窮制度の申請をされたいという意思の方が多いと思われる。</p> <p>大貫議員 青葉区の状況はそうだと認識している。ただ、コロナに罹患の疑いの際のPCR検査や発熱外来の問題、生活支援、小規模事業者の特別給付金、持続化給付金等いろいろ問題があるが、それを総合的に区として一括で相談するような場所というのは設定してあるのか。</p> <p>岡田副区長 総合的な1つの相談窓口というのは設定しておらず、各課でご相談をお受けしている。</p> <p>大貫議員 来庁された方がどこに行くのか、コロナに関わって心配を持っている方々がどういうルートで各課の相談にたどり着くのかというフローとどうか、流れというのはどう考えているのか。</p> <p>岡田副区長 区役所入口に広報相談係があり、ご相談窓口が分からないお客様はここでお聞きになるパターンが多いようである。そこから、ご相談内容に応じて戸籍課や生活支援課などの窓口をご案内している。</p> <p>大貫議員 それであれば、コロナの関係でご来庁し相談がある方は、入ってすぐ左側の最初の窓口のところに相談してくださいという看板や目印といったものを設置した方が良い。</p> <p>岡田副区長 入口付近で混雑しても困るため、少し考えたい。特別定額給付金の相談窓口は、昨日から、広報相談係の左手に相談窓口が開設されている。</p> <p>大貫議員 そこも含めて、やはり区民の方が来庁されたときに、分かりやすいルートやフローの明示を是非やって欲しい。</p> <p>大貫議員 特別定額給付金の問題であるが、間違えて申請しない欄にチェックして申請書を出した場合、後でチェックするつもりはなかったと区民の方から相談が来たときにどう対応するのか。</p> <p>守屋総務課長 コールセンターに問合せをしていただければ対応できると聞いている。</p>
--	---

	<p>大貫議員 間違って記入した場合には、申請すれば手当てができるというアナウンスを是非して頂きたい。</p> <p>最後に、商店街の加盟店舗1店舗当たり10万の交付がある「商店街等の活動支援一時金」について、青葉区内で申請している商店街は現状でどれくらいか。また、商店街に入っていない個人商店や小規模事業者がどれくらいいるのか数字を把握しているのか。</p>
<p>鈴木地域振興課長</p>	<p>申請書は各商店会に送られており、既に1商店会から申請があった。その他の商店会からも経済局に対し問い合わせが来ていると聞いている。区商連に加盟していない商店の数は、区では把握が困難であるが、ホームページやポスター掲示、広報など、あらゆる手段を使って周知をしたいと考えている。</p>
<p>大貫議員</p>	<p>商店街に加盟していない商店に10万円の給付は無いことは、非常に問題である。小規模事業者は、フリーランスも含めて様々あるわけだから、これは区の仕事ではないかもしれないが、実態把握のための調査も是非やって頂きたい。</p>
<p>岡田副区長</p>	<p>経済局にも相談しながら、引き続き商業振興の支援を行っていききたい。</p>
<p>上田青葉土木所長</p>	<p>先ほどご質問のあった道路標示・路面標示についてですが、昨年、滋賀県の大津市の交差点事故が大きく影響しており、青葉区に限らず、交通安全対策を進める必要性は高いと認識している。事故の影響もあり、青葉警察署と青葉土木の共同で区内の交差点等の点検を行った。また、未就学児関係の交通安全対策については、青葉警察とも点検を実施している。昨年度末ぐらいから、青葉土木としてもできるところから安全対策については取り組んでいるところである。</p> <p>また、路面標示については、スクールゾーン協議会からは要望等をよく頂いており、その都度、青葉警察と土木事務所がそれぞれの所管の仕分けを行い、対応等を取っている。区としても、警察所管の規制のところまで手は出せないが、積極的に働きかけていきたい。</p> <p>また、今年度はコロナの関係でスクールゾーン協議会が開催されていない。地域の保護者からの要望などを聞き、土木事務所としてもできる限り対応していきたい。</p>
<p>大貫議員</p>	<p>青葉の土木事務所にはよくやってもらっている。道路標示は県の問題</p>

	<p>であるが、青葉区全体の問題として、県や警察にきちんと申し入れるための資料づくりをやって頂きたい。区長いかがか。</p> <p>小澤区長 交通安全の大切さ、青葉区の路面標示の件が重要な課題であることなど、本日お聞きし再認識したので、実態の把握等について区として何ができるか真剣に考えたい。</p> <p>山下議員 小澤区長にまず伺いたい。区民の意識からしたら、これだけ税金の負担率が高くて、個人当たりの税金を高く払っているのに、結局、地域に対する還元は全くないではないかという声が、これから区長がいろいろなところを回られると必ず出てくると思う。</p> <p>この税の負担に対する享受というか、リターンというか、青葉区として人口30万の大きな街で高額の納税者が非常に多いという区民の思いからすると、やはり区独自の政策ないし青葉区の特徴というものをもっと前面に出してほしいという要望や意見は、我々も常に様々な機会で見聞している。青葉区としての特徴的な思いがあるということ踏まえ、今後は区政の運営をぜひ推進して頂きたい。</p> <p>青葉区に来られて、青葉区というものをどう捉え、区としての特色を出す必要性をどのように感じになっているのか伺いたい。</p> <p>小澤区長 青葉区の特徴について、私の印象としては健康長寿の街というのがある。また、整然とした街並みがあり、道路なども整ったきれいな街という印象はあったが、1人当たりの予算額については赴任して初めて認識した。</p> <p>青葉区は、郊外部でありながらもきれいな街並みや美しい自然、区民同士のつながり等、様々な魅力を持っており、これからも残していきたい。</p> <p>私が青葉区に来てから地域の会合等が全部中止になっており、区民の皆さまとお会い出来ていないので実感としてはないが、非常に活発な区民の方が沢山いると聞いている。そのようなつながりを持つということが、住んでよかった街につながると思う。</p> <p>そういうことを踏まえ、その時代に合ったことを考えていく必要がある。区民の皆さまのご意見をお聞きしながら、青葉区の実現には何が必要かを常に考え続けていけたらと思っている。</p> <p>山下議員 それと少し関連してくるが、今年度の区づくり予算の中で、これから中止になるものも出てくると思う。オリンピック延期が決まり、オリパラ関連の事業は無くなるため、年度初めでいきなり予算の組替えのよう</p>
--	---

	<p>な話になっている。青葉区でも、区づくりの中で難しいなと思えるような事業が幾つか出てくるのではないかと思うが、その点はどのように考えているか。</p>
小澤区長	<p>現時点で中止が決定している事業というのは、それほど多くないが、当然できない事業もできてくる。そういう予算についてはある程度留保し、当然、コロナ対策が中心になるが、今必要なことに振り替えていきたい。</p>
山下議員	<p>青葉区の独自政策的なものを、アフターコロナ政策として、緊急的に盛り込めるものなら盛り込んでもらいたい。区では正直予算が限られるので、場合によっては局を巻き込み区局連携予算に急遽入れてしまってもいい。それぐらいの思いで、青葉区としての魅力、打ち出しを是非進めてもらいたいし、我々も協力したい。</p>
小澤区長	<p>今年度の予算については様々な施策を検討しており、次年度の予算編成においても、局との連携も含めて様々な角度から検討していきたい。</p>
山下議員	<p>PCR検査について何か判明している点はあるか。</p>
勝島福祉保健センター長	<p>市内10か所に簡易検体採取所の設置を目標としている。</p>
行田議員	<p>2点伺いたいのだが、1つ目が介護の関係である。実際、区内でも施設や訪問の人がとにかく足りず、様々な課題がある。人の問題に関して、青葉区として動きがあったこと、これからやろうとしていることを伺いたい。</p>
松永高齢・障害支援課長	<p>コロナ禍で介護を取り巻く状況について報告したい。デイサービスでは一部休止している事業者もあり、他のデイサービスに振り替えたり、ホームヘルパー利用に切り替える対応が必要となった。そうした際に、ケアマネージャーが個人で、どこのデイサービスが利用できるのか調べるのが非常に大変だという声を頂いた。それで、区でデイサービスの開設状況を聞き取り、一覧化して皆様に提供し、活用頂いた。</p> <p>区としては、直接人の手当てというのは困難だが、事業者が業務を進めるに当たり必要な情報を共有し、効率的にできるよう、顔の見える場づくり会議の場を利用しながら取り組んでいる。</p>

行田議員	<p>第2波が想定されるので、先を見越した一手を是非お願いしたい。</p> <p>地域包括ケアの関係ではウェブの会議が行われていると伺っているが、ケアマネジャーの会議もある。こうしたケアマネ同士の情報交流というのは、介護の運営においては極めて重要であるので、そのフォローもしっかり進めていってほしい。</p>
松永高齢・障害支援課長	<p>顔の見える場づくり会議は、ケアマネ連絡会とか通所連絡会などの代表者とウェブで情報交換をしているが、ケアマネ連絡会の中でも情報共有をしていると聞いている。青葉区には在宅医療連携拠点のメディカルケアステーションという情報共有のシステムもあるので、そうした既存のシステムも活用しながら、情報共有を図っているところである。</p>
行田議員	<p>コロナ禍に大災害、ダブルでかかってきた場合にどう対応するのかという観点から、もう一点伺いたい。特に4月の緊急事態宣言が出た後、外出自粛が厳しくなり、生活ごみが非常に増えていった。これは資源循環に関わる話だが、週2回の生活ごみの収集のときに、ごみ置き場が非常に溢れた。</p> <p>生活ごみがコロナの自粛で増え、さらに、そこに大災害でトイレのパックが加わるとなると、2倍とかそれ以上生活ごみが増えていく可能性がある。第2波が来るということを想定し、今のうちにやらなければいけないシミュレーションが様々にある。そのうちの1つとしてごみの回収があると思うが、その点はいかがか。</p>
石井資源循環局青葉事務所長	<p>自粛生活により今回、燃やすごみが非常に増えており、事務所の人員で応援態勢を取り、十分な対応をしてきた。災害等が発生した際は、事務所の応援態勢で乗り越えていきたい。</p>
行田議員	<p>今回は本当によかったと思っている。ただ、一方で気になるのが、回収回数を増やさなければいけない事態が恐らく発生するのではないかと、第2波が起きた場合には週3回収集となることの準備も必要なのではないかと思うので、その点を検討頂きたい。</p>
平田議員	<p>コロナ禍で日々の業務も大変だと思うが、保育園の関係者から、園児で4日間発熱があつて区役所に相談したところ、土曜日だったがその後に保健師から電話があり、総務課やこども家庭支援課など区役所内で全体を掌握して、細やかに対応して下さったと聞いている。</p> <p>この区づくりの推進費の中でも、様々な影響があつたかと思うが、例えば11ページの児童虐待防止対策のところ、見守り保育付き相談を週</p>

	<p>3回行っていたものを、4月の半ばから5月末までは中止していたということだが、どのようなことに置き換えて業務をされていたのか伺いたい。</p>
椎葉こども家庭支援課長	<p>見守り保育付き相談を実際に中止していた期間は、不要不急の外出自粛の時期でもあり、窓口に来られる方の数は減っていた。必要に応じて職員が見守り保育を行い相談を受けるという対応をしていた。</p>
平田議員	<p>オンラインに切り替えるとか、できることとできないことがあると思うが、当然ながら市民参加の企画や講座、イベントなど、市民が関わることが多く執行できないことは多い。先ほど区長からもあったが、青葉区は人口も多く、子育て世代も多くて、区づくり推進費というのは、まさに地域のニーズに合わせて重点的に対策できることであるので、青葉区に必要な支援について、優先順位を上げて考えていただきたい。</p>
田中議員	<p>3ページの青葉福祉保健センターの対応状況というところで幾つか質問させて顶きたい。相談件数が520件ということだが、ホームページ等では昼間は帰国者・接触者外来に、夜間は各区の福祉保健センターに相談するよにということと情報提供はされているが、520件という件数は多く感じる。昼間と夜間の数字の割合というか、件数が分かれば教えて頂きたい。</p>
滝本福祉保健課長	<p>これは区役所の職員が受けた件数で、帰国者・接触者外来相談件数などはこの中に含まれていない。</p>
田中議員	<p>濃厚接触者になったかもしれないけれども、どこに相談していいのか分からないということで、市の帰国者・接触者外来の案内をしたことがある。コロナの症状が出たときや心配なときの相談窓口として帰国者接触者外来が拡充されてはいるが、やはり区の福祉保健センターに負担がかかっていると思われる。人員が少ない中で相談件数が多いと思うが、どのように感じたか。</p>
滝本福祉保健課長	<p>この520件は、5か月間の数値を統計している。一番多かったのが4月の210件だが、1日あたりで割り算すると、電話がつながらないなどの支障はなく職員が十分な対応をできる件数であったと考えている。</p>
勝島福祉保健センター長	<p>私も接触者相談センターに応援に行ったこともあるが、接触者相談センターへの相談であっても区役所で対応が必要なケースは連絡が来て</p>

	<p>共有されるので、どちらにご連絡して頂いても大丈夫であるので、安心頂きたい。</p> <p>田中議員 青葉区内で、コロナの疑いで近所のクリニックに連絡をしたところ、診られないと言われ困ったという相談があった。例えば、近隣のドクターから受診拒否があって、どこを受診していいか分からないという相談は、件数としてどのくらいあったのか。</p> <p>勝島福祉保健センター長 準備が遅れているクリニックもあったようだが、数としては多くなかったと記憶している。</p> <p>藤崎議員 今回、コロナ対応の資料をまとめていただいたが、区庁舎の規模や形、区民の人口、置かれている環境が18区様々で異なる。青葉区は感染者数が一時期トップの段階もあったが、青葉区で何が起きたか、対応として何がよかったのか、もしくは悪かったのか、どんなトラブルが起きたかとか、区庁舎の構造上、スペースが広く取れるとか、18区ごとに課題が違う。最終的に青葉区として、どこかの段階でまとめて頂き、この区づくりか、どこかのタイミングで区議員団とも共有して頂きたい。</p> <p>小澤区長 青葉区庁舎のいいところはスペースが広いということ。マイナンバーカードの件で戸籍が混むというときに、来庁者に1階でもお待ち頂く必要性も検討したが、そこまで至らず対応できた。</p> <p> お客様の感染防止の対策についても、午前中の会議で各課に何かできないかと言ったところ、各課がその日の午前中に全て迅速に対応した。その時は、ゴミ袋やのぼり旗の棒を使うなど、仮の一時的なものだったが、本当にあっという間に職員が協力してやってくれた。この職員の意識の高さというのも、私は感じた。</p> <p> 今は大分手を加え、窓口も改善されているが、そういう職員の働きと、区庁舎が比較的広いため、ソーシャルディスタンスも取りやすいというところが良かった点だと思っている。</p> <p> 検証はこれからもきちんとしたいと思うので、先生方にもご報告したい。</p>
--	--